

平成29年度第2回北海道地域の教育支援活動推進研修会 (道央会場)

期日:平成29年10月18日(水) 会場:札幌市・道庁別館地下1階大会議室他 参加者:90名

1 説明「地域学校協働活動について」

説明者 学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ主査

石田 貴 宏

地域全体で子どもたちを育む環境を醸成するため、地域人材の協力を得ながら、魅力的な学習・体験プログラムを実施することの大切さや、今後の地域における学校との協働体制や放課後児童クラブの在り方等について、国の動向や道内の事例をもとに説明がありました。

参加者からは、「学校、地域、行政が、願いや情報を共有し、協力しながら取り組むことの大切さを実感した」「放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型の実施を具体的にイメージできた」などの感想が寄せられました。



2 事例発表「札幌市西岡高台児童会館の取組について」

発表者 札幌市西岡高台児童会館主任指導員(館長)

高杉 学 人 氏

地域住民や団体同士の絆を深め、互いに協力しながら子どもを育てる機運を醸成するため、「ごみゼロ大作戦」や「ふれあいフェスタ」など児童館を中心拠点として行った様々な活動の紹介や、そこに関わる職員の意識改革の重要性について発表がありました。

参加者からは、「児童館が地域と連携しながら様々な事業を展開できることが分かった」「関わりの場を増やすなど、身近なところから交流を深めていきたい」「地域との連携を築き深めて行くために、まずは自分から動こうと思う」などの感想が寄せられました。



3 講義「子どもの心を理解するカウンセリング」

講師 北海商科大学教授(北海道教育カウンセラー協会代表)

大友 秀 人 氏

子どもとの信頼関係を築くために、相手を理解しようとする「ワネス」、相手の存在に気を配り必要などときには具体的な行動を起こし支える「ウネス」、自分を開くことによって相手の心を開く「アイネス」という3つのキーワードに基づく教育カウンセリングについて、演習を交えた説明がありました。

参加者からは、「実際に演習で感じたことを仕事でも生かしていきたい」「普段、子どもと接している自分の態度を見直すきっかけになった」などの感想が寄せられました。



4 選択研修

A 演習「いろいろな文化体験プログラム」

講師 北海道総合政策部国際局国際課国際交流員

シュースター エミリー 氏

「進化ゲーム」や「お腹すいたモンスターゲーム」など、小学校低学年からできる英語を使った様々なゲームや、英語の曲に合わせて体全体を使う踊り等を体験しました。

参加者からは、「知っているゲームでも英語を取り入れると別の楽しさがあった。子どもたちと一緒に遊びたい」「自分が楽しむことができた。自分が楽しいと子どもにも伝えやすい。明日から早速実践したい」などの感想が寄せられました。



B 演習「創作活動プログラム」

講師 道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川社会教育主事 青山 智恵

落ち葉や木の実などの身近な材料を使って、短時間で簡単にできるモビールやしおりなどを作りました。また、子どもの発想を広げるための働きかけや創作活動全般における安全配慮について説明がありました。

参加者からは、「身近な物を使用していたので、工作が苦手な子でも楽しんで作れると思った」「自然とふれ合いながら、作ること自体を楽しめる工夫がされていた」などの感想が寄せられました。



C 演習「障がいのある子どもや特別な支援を要する子どもへの対応」

講師 石狩教育局教育支援課義務教育指導班指導主事(特別支援教育スーパーバイザー) 音羽 孝文

近年の法改正や疑似体験をもとに、特別な支援を要する子どもへの対応について、具体的な事例をもとに説明がありました。

参加者からは、「話が分かりやすく、日常に置き換えながら聞くことができた」「障がいのある子だけでなく、普段接している子の指導にも生かせる新しい発見があった」「子どもが日々抱えている困り事を実体験し、子どもの理解が深まった」などの感想が寄せられました。



5 コーディネーター研修

講師 学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ主査

石田 貴宏

学校と地域の連携をより円滑に進めるためのコミュニケーションの在り方について、演習を中心に説明がありました。また参加者自身が、お互いにファシリテーターとしてグループワークを進行するなど、課題解決に向けた実践的な研修が行われました。

参加者からは、「これからのコーディネーターの業務に生かしていきたい」「ファシリテーターを実際に経験し役割が理解できた」などの感想が寄せられました。

